



地域日本語支援ニュース こだま 第 348 号

2018.10.25



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる：広島県呉市から■

平成 30 年 7 月豪雨 自分で行動する気持ちと力～SNS の活用～

公益社団法人国際日本語普及協会 松尾恭子

2■高校進学進路ガイダンス情報（10、11 月）■

=====

1■ともに生きる：広島県呉市から■

今年は特に災害が続いています。必要な人にどんな情報をどうやって伝えるかが、とても重要です。「平成 30 年 7 月豪雨」は、広範囲にわたって甚大な被害を与えました。心よりお見舞い申し上げます。当協会の松尾は平成 15 年に広島県主催の文化庁委嘱地域日本語支援コーディネータ研修を担当して以来、広島県東広島市、呉市、福山市などを何度も研修のために訪れており、活動についても話し合っています。7 月の豪雨の際にも呉市で「日本語教室《呉》」を運営する「ひまわり 21」の代表 伊藤美智代さんと頻繁にやりとりをしました。その折の記録をここにご報告します。

.....

平成 30 年 7 月豪雨

自分で行動する気持ちと力 ～SNS の活用～

公益社団法人 国際日本語普及協会 松尾 恭子

◆今回、呉市も大変大きな被害を受けました。

「ひまわり 21」が運営をする日本語教室《呉》は JR 呉線の新広（しんひろ）駅付近で活動をしており、土砂崩れなどの被害を受けたメンバーはいませんでしたが、断水、通信障害、交通機関のマヒなど長期にわたり困難な日常生活を強いられました。

#### ◆日本語教室《呉》「ひまわり 21」の活動と SNS 〈注 1〉

「ひまわり 21」は、毎週土曜日午後 6 時から 7 時半まで日本語教室《呉》を新広駅そばの「広まちづくりセンター」でしています。「ひまわり 21」では普段からメンバー内の連絡に「ひまわり 21」専用の Facebook 〈注 2〉を使っています。災害時には、伊藤さんは、市役所の広報 Facebook 上の「やさしい日本語」情報を、ご自身のタイムライン 〈注 2〉や「ひまわり 21」の Facebook に流していきます。これを読んだ日本人メンバーも学習者も情報を各自がアップし共有しました。

今回の災害では、加えて、教室を巣立った各国の学習者が、その情報を自国語に翻訳してアップしたり、コメントをすることが自然に起きて情報が広がりました。

#### ◆呉市の広報

担当者の方が呉市 HP をチェックしながら、投稿する情報を選択して「やさしい日本語」に直して流しています。呉市の公式広報の Facebook には「呉市国際交流協会」にて作成された多言語での投稿も同時に行われています（職員の方は「ひまわり 21」の教室活動の見学を重ね、日頃から連携をとっています）。

#### ◆「ひまわり 21」からの発信

伊藤さんは呉市広報の Facebook 上の災害に関する情報や、伊藤さんからメンバーへのお知らせを発信し続けました。投稿文を記載します。（※印は松尾が記入）

◎7 月 5 日（木）

ずっと 雨（あめ）が 降（ふ）っています。

明日（あす）も 強（つよ）い雨が 降りそうです。

川（かわ）の 水（みず）が あふれるかも しれません。

山（やま）が くずれるかも しれません。  
川や崖（がけ）の 近（ちか）くに 行（い）かないでください。

◎7月6日（金）

大雨（おおあめ）警報（けいほう）が でています。  
避難（ひなん）準備（じゅんび）をする お知（し）らせも でした。  
川や崖（がけ）の 近くに 行かないでください。逃（に）げる準備  
（じゅんび）を しておきましょう。

※気象庁は、6日（金）午後5時10分、福岡、佐賀、長崎、次いで午後7時40分に岡山、鳥取、広島県にも大雨特別警報を発令しました。ニュースでは「甚大な災害の危機迫る」と伝えていました。

伊藤さんはこの日の夜に出かけていて、帰りがけに道路の急激な冠水を、怖い、今までとは違うと感じて、帰宅後次の投稿をします。

◎7月6日（金）夜

川の水が あふれそうです。  
道路（どうろ）も 水があふれて 川のように なっています。  
あぶないです。きをつけて ください。

※7月6日の夜の呉市付近の状況を NHK 記者は次のように述べています。  
「午後9時ごろ広島市から10キロ余り進んだJR坂駅付近にいました。片側二車線のすべてが15～20センチ程度冠水。災害に巻き込まれたことを自覚した瞬間でした。」〈注4〉

※7月7日（土）呉市役所から日本語教室中止の連絡が来て伊藤さんは次の投稿をします。

◎スタッフの皆さんへ

連絡できる範囲で、教室中止のお知らせをしてください。

◎みなさん だいじょうぶですか？

今日の 日本語教室は やすみます。ありません。  
あちこちで ひがいが でています。まだまだ あぶないです。  
そとに でないでください。

◎水道(すいどう)が とまるかも しれません。

水(みず)を ためて おいてください。

※呉市国際交流協会

やさしいにほんご版ルビ付きお知らせを伊藤さんからシェアします。

【水(みず)が 出(で)なくなります】

7月(がつ)7日(にち)〈注5〉の お昼(ひる)ころから

水道(すいどう)の 水(みず)が 出(で)なくなります。

次(つぎ)の 場所(ばしょ)に

給水車(きゅうすいしゃ) <水(みず)を 運(はこ)ぶ 車(くるま)>が  
行(い)きます。

水(みず)を 入(い)れる 容器(ようき)を 持(も)って行(い)って くだ  
さい。 水(みず)が もらえます。

◆学習者による広がり

上記の給水車の投稿に対してベトナム人の学習者が、給水車に行列する人々の写真とコメントを投稿しました。

「広公園で水を取りに行きましょう、水道は使えませんです」

※さらに学習者からのコメントや質問、断水への工夫など投稿が続きます。

「広まちづくりセンター（ひまわり 21 の日本語教室の建物）にもあります。  
どうぞご利用ください」（インドネシア）

「水がなくて困っています」「水はいつ出ますか。」（ベトナム）

「明日の給水時間は？」（ベトナム、フィリピン、中国など）

大きいゴミ袋にいっぱい水を入れてストックしてある写真。

※この7日土曜日昼ごろから、まず固定電話が使えなくなり、スマホも電波が届かなくなり、Facebookが使えなくなりました。それから丸1日、情報をどこからも受け取れず、どこにも行けない状況になりました。情報と交通の遮断の中の不安な時間の中、断水にもなりました。

※7月8日（日）午後スマホが使えるようになり、「ひまわり 21」 Facebook に流し続けます。

#### ◆必要な情報は刻々と変化していく

急を要した土砂崩れの場所や交通情報から、日々必要な情報は変化していきます。入浴場所、給水場所などの情報が必要になります。

#### ◆情報を取りに行く ―自分で行動する気持ちと力―

学習者は、普段から SNS、特に Facebook で情報を得ており、Wi-Fi（ワイファイ）の使える場所、例えばコンビニなどに行ってネットに接続しています。

災害時には、スマホの Facebook には、市役所や日本語教室の人が流す大切な情報が流れている、その情報を知るためにスマホが使える場所に行くというこの一連の行動を取るかどうかで状況が大きく変わってきます。知っていて、自分で行動していかなければ、情報は得られません。

普段から、このことを分かっていること、気遣いあい、情報をやりとりする関係ができていることこそが一番重要なことです。「学習者自身が自分で行動する気持ちと力をもっていることが情報入手のカギとなります」と伊藤さんは言っています。

#### ◆日ごろのつながりがある所

上記のように災害で情報を入手できるかどうかは日ごろからお互いが、どれだけ交流があるかにかかってきます。「ひまわり 21」は 25 年の活動の中で常に地域につながる活動を実践してきました。日ごろ、単に日本語を教えるだけでなく、地域につながる活動を継続してきたからこそ情報を流す、受け取る、さらに広めるというところにつながっていることが分かります。

#### ◆気づきからの振り返り

不安な気持ちに寄り添う必要を感じて、「ひまわり 21」ではアンケートを用意して学習者と話しながら聞き取りをしました。何に困ったのか、これからどうしたいのか話す中で気持ちが落ち着いていきました。今回の災害で情報を得た場所は、職場の人、日本語教室の人からなどでした。

これから水を大切にすること、日本語をもっと学習してメールが読めるようにしたいなどの他に、「ボランティアセンターに行って、できることをしたい」が多くありました。

伊藤さんは多文化共生マネージャーでもあり、同じくその活動をしている福山市の宮野さん、東広島市の間瀬さんと協力をして各地域でアンケート調査をしました。今後への貴重な声が集まっています。

#### ◆土砂撤去作業への応援

土砂崩れの激しかった地域では土砂撤去作業が今も続いています。撤去支援のお知らせを見た学習者から「ぜひ参加したい!」と声上がり、酷暑の7月以来、日曜日ごとの4回で延133人の学習者が参加しました。ベトナム、インドネシア、ミャンマー、フィリピンの方々が力を貸してくださいました。土砂撤去以外にも協力できることを今、考えています。

日本人も学習者も地域の住民として、できることを協力していくこの関係を日本語教室から広げていくことが、とても重要なことであると今回の記録は教えてくれています。

#### 編集者注

〈注1〉SNS (Social Networking Service) : 人のつながりを支援するインターネット上のサービス

〈注2〉Facebook (フェイスブック) : SNS の代表的なもの

〈注3〉タイムライン : Facebook 上の情報の時系列表示

〈注4〉NEWS Up 「7月6日夜 広島で起きていたこと」 : 2018年7月11日 NHK WEB NEWS より抜粋

〈注5〉7日 (にち) : わかりやすいように市役所で (にち) とルビを付している。

---